

2009年度

科目名	日本文学史Ⅳ		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文2	コード	31060
開期	前期	講時	水曜日1限
		単位数	2
授業テーマ	近世中期文学概観。		
目的と概要	近世前期の元禄文学は講読で西鶴作を読んでいる。近世後期、化政文学は馬琴の読本に代表されるように長編が多い。中期の文学は短編が主流でバラエティーにも富んでおり、講義で紹介するにはうってつけである。表現第一主義の凝った文学、天明文学を味読する。		
成績評価法	授業終了時の試験に、平常点を加味する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	講義中、随時紹介する。		
履修に当たっての注意・助言	200年以上前に書かれた作品で笑うことは、相当難しい。		
講義計画			
<p>第1回 天明文学概説。それは「お江戸」で誕生した。</p> <p>第2回 続き。</p> <p>第3回 和歌のパロディ狂歌について。狂歌が天明文学の地盤を形成した。</p> <p>第4回 続き。四方赤良(大田南畝)の作を中心に。</p> <p>第5回 漢詩のパロディ狂詩について。寝惚先生(大田南畝)を中心に。</p> <p>第6回 上方の作者、銅脈先生(畠中観齋)について。</p> <p>第7回 天明文学の理論的(?)指導者大田南畝について。</p> <p>第8回 天明文学の華、黄表紙について。概説。</p> <p>第9回 黄表紙『大悲千祿本』(だいひのせんろっぽん)について。</p> <p>第10回 続き。作者芝全交について。</p> <p>第11回 天明文学の粋、洒落本について。概説。寛政の改革と蔦重。</p> <p>第12回 続き。山東京伝作『傾城買四十八手』紹介。</p> <p>第13回 続き。江戸の恋愛小説人情本について。</p> <p>第14回 山東京伝と曲亭馬琴。</p> <p>第15回 私の専門から小説に偏るので、国学・演劇・漢詩文いずれかの専門家に一度ゲスト講師をお願いする予定。</p>			